

新潟県

63年

公民館月報

8月

第426号

特集 公運審活性化のすすめ

——小須戸町中央公民館の場合——



安宅庸雄「晩夏」

1978年制作
116.8×90.8cm
(F50号)油彩
新潟県美術博物館所蔵

安宅庸雄(1902~)は新潟市出身。独学で画家を志す。洋画家安宅安五郎は伯父にあたる。日展参与、一水会運営委員。女性の青春を誠実に表現。

新潟県公民館振興市町村長連盟定例総会開催



開会のあいさつに立った星野会長

今年度事業計画等決る

生涯学習センターの設置を

県立施設の設置要望へ

七月十五日(金)新潟市の白山会館を会場に、新潟県公民館振興市町村長連盟の本年度総会が開催された。

昭和六十二年度の会務報告・歳入歳出決算の承認、本年度の事業

計画・歳入歳出予算案が審議承認された。

なお新規事業として「県立生涯学習センター(仮称)」の設置に向けて陳情に取り組むことを決めるなど、積極性を示した総会であった。議事終了後、来賓として迎えた前会長石井耕一氏から、諸情勢を見すえたあいさつがあった。

当日の出席の会員六十五名。来賓には、県社会教育課課長補佐山本博氏、同社会教育主事渋谷孜氏、本会からは、木下会長・近藤・遠藤副会長、ならびに前会長石井耕一氏をお迎えして盛大な総会が開催された。

星野会長は、開会のあいさつで、「生涯学習社会形成のための基盤整備については、国・地方自治体の役割が大きい。その一環として、県立の生涯学習センターの設置を急ぐ必要がある。これが早期実現に向けて、陳情運動に取り組みたい。また、その成果を

得るためにも、当連盟への未加盟市町村長に対する加盟要請に努めているが、未加盟の全市町村長さんから加盟の旨快諾を得ている」とあいさつされた。

次に、当県公連の木下会長が来賓の立場から「生涯学習の推進機関としての公民館は、職員体制や施設の整備などに問題を抱えているので、より一層の努力添えを賜り、期待される役割を果たしたい」と述べられた。

続いて、県教育長代理の県社会教育課長補佐山本博氏は、臨教審答申にふれ、「生涯学習を進めるマチづくりの中核的センター」としての公民館は、今後さらに従来からの機能を充実させるばかりでなく、学習情報の提供や個人学習のための援助など、新たな機能の充実が期待されているので施設設備の整備や公民館運営に新たな見直しをしてほしい。また、特色ある活動をしてほしい」と指摘された。

重点目標と事業計画は三面下段に

今こそ公民館の原点を ——石井耕一氏のあいさつから——



石井耕一氏

のかげにかくれてしまいうことになりません。やがて、高度経済成長期に、公民館施設の建設意欲の高まりの中で、国の建設費補助金の増額運動を進めるに当たり、市町村長の力が再び必要となり、当市町村長連盟が組織され、大きな成果をあげたわけがあります。

私ごとで恐縮ですが、全公連の副会長の任期が満了になったので、これで辞めるつもりでございましたのに、もう少し続けろといわれ留任することになりました。これは、公民館の原点を見失なわせない役割を私に与えたいものと思っております。

公民館の原点とは、昭和21年7月に出された次官通牒、つまり寺中構想であります。寺中氏が内務省出身であったから、公民館の発想の根底には、単なる社会教育の施設に止まらず、もっと広い範囲の役割を持つように定義づけられました。今いうところの「村おこし、町づくり」の原動力でした。ですから、市町村長自から、公民館長を兼任するという例が少なくありませんでした。その後、教育委員会の所管となり、学校教育主流

原点に関するもう一つは、生涯教育に關してです。臨教審の答申は教育界にとっては画期的なことですが、公民館の位置づけについては何もふれておらず、極めて不満です。生涯学習の必要を最初に取り上げたのは全公連でした。公民館の理念を、①人間尊重の精神、②生涯教育の推進、③住民の自活能力の向上ととらえ、高く掲げて二十余年が経過しています。今、ここに答申の批判をするのみでなく、日々の実践の中で生涯教育の推進の中核となっていくことが大切です。地域に根ざした学習活動は、村おこし町づくりにつながるものだと思信するからであります。

市町村長の皆様から、そのような公民館の立場をご理解いただいて、公民館を多に働かせていただきたいと思います。

第二回理事会開催

優良公民館 表彰選考終る

去る六月二十二日(水)新潟市中央公民館を会場に、本年度第二回理事会が開催された。

この理事会の主要議題は、先に県内公民館から推薦のあった、優良公民館の表彰候補、公民館運営審議会委員ならびに永年勤続非常勤職員の表彰候補者の選考にあった。事務局であら

かじめ資格審査を済ませた、公民館表彰選考は次のとおりである。

市民館一館、永年勤続者九名について選考の結果、全員(館)を表彰することに決定した。

- 優良公民館表彰
- 柏崎市黒姫公民館
- 永年勤続者表彰
- 池田伊勢松 十日町市公民館
- 中川 保 佐渡畑野町公民館
- 布施 仁作 燕市中央公民館
- 薄田 敏 西蒲味方村公民館
- 今泉久米七 南蒲中之島町公民館
- 佐藤伊久雄 三条市井栗公民館
- 竹石 三郎 三条市大崎公民館
- 相沢 観司 中頸柿崎町中央公民館
- 野村松之進 長岡市富曹亀公民館

辛口

「生涯教育の時代」として公民館期待論が叫ばれるようになって、公民館について二つの全く相反する評価が行われている。一つは、公民館の役割はもう終わったという公民館終えん論。もう一つは、公民館こそ生涯教育の

生涯教育栄えて公民館減ぶ?

若杉 正

シモジモに教え、育てる統制的社会教育行政の時代は終わった。市民文化は十分に成熟し、民間カルチャーセンターなどで、好きな時、好きなテーマを好

なるほどカルチャーセンターは花盛りだが、それは都会の一部の現象で、それも企業利潤を抜きに成立しているわけではない。草深い農村にまで根を張っ

て、学習機会を提供し得るところは公民館を置いてほかにない。都市と農村を通じて生涯教育を担える施設こそ公民館だ、と。この両論のはざまに立つて、公民館は今後どう身を処そうとしているのか。公民館人の肉声が開いてこないのが残念だ。うかうかしていると、生涯教育栄えて公民館減ぶ、といった皮肉な事態がやってくるに限りなく近い。公民館人の奮起を望みたい。

(新潟日報論説委員長)

昭和63年度新潟県公民館振興市町村長連盟事業計画

1. 重点目標

生涯学習社会の形成は今日の国民的課題となっている。したがって、市町村では学習基盤の整備をはじめとする生涯学習推進態勢の整備充実により一層努める必要がある。

このような態勢下において、社会教育の拠点施設としての公民館は、生涯学習の中核施設としてますます重要な役割を担っている。しかるに、公民館では、法体系の不備など解決をせまられる多くの問題を抱えている。

よって、①県公民館連合会と一体となって、公民館施設のより一層の整備充実や社会教育法の改正を中心とする関連法体系全般の整備拡充に努める。②また、生涯学習推進のための、調整・研究、情報飼料の収集と提供、社会教育関係職員等の研修の機能などを整備した県立の基幹施設(仮称生涯学習センター)の実現に努める。

2. 事業計画

(1) 公民館関係予算増額運動

例年、公民館振興市町村長連盟と全国公民館連合会が合同して実施している公民館関係予算増額運動に代

表を贈り成果を期する。

(2) 研修会参加

公民館振興市町村長連盟の主催する研修会等に代表を派遣し、学習を深める。

(3) 大会の共催と参加

新潟県公民館大会を主催し、参加するとともに、全国公民館連合会、関東甲信越静公民館連合会の共催する研究集会、振興大会にも積極的に参加し課題の解決に努める。

(4) 会員の拡充

公民館の整備促進と活動の振興をめざす県内全市町村長の加盟をはたらきかけ組織基盤を確立する。

(5) 資料作成

新潟県公民館振興市町村長連盟要覧を発行するとともに、関係方面に配布して理解を深める。

(6) 生涯学習センター(仮称)の早期設置の陳情

県立生涯学習センターの早期設置について、関係団体と相提携して陳情する。

活性化のすすめ

公民館の場合

はじめに

いま、公民館界では運営審議会
の形が問題になってい
る。それは公民館の活動のマン
ネリ化、無気力化につながる重
要な問題でもある。

このため、関東甲信越静公民
館研究会では近年「公運審部
会」を設けてきたが、本年はさ
らに都市、町村の二分化に分か
れ活性化への方途を探ることに
している。

たまたま本県の小須戸町中央
公民館の長井武雄氏(二号委員)
が実情発表をする予定なので、
これを機会に発表要項に若干の
肉づけをして本紙にも発表して
もらった。

一、町の概況

小須戸町は、新潟平野のほぼ
中心に位置し、東を丘陵地、西
を信濃川にはさまれた人口約一
万六百人、面積約十七万平方料
の比較的小さな町です。

古くから花木栽培の特産地で
あるとともに、ニット製品・電
子部品・食料品などの製造工場
が百近くある。さらに、農業の
面で、稲作が中心であるが果樹
栽培も盛んに行われている。

昭和五十五年には「花と緑の
町」宣言を行っている。

二、公民館の概況

公民館は、中央館のほか四
地区にそれぞれ分館が置かれて
いる。

中央館は、昭和五十年六月に
建設され、図書室(蔵書冊数は
約一万四千冊)を含む鉄筋三階
建て千四百三十平方メートルの
建物である。分館は、各地区の
集会場や学校を利用している。

人的体制は、館長一名、専任
職員二名、社会教育指導員一名、
分館には、分館長のほか分館主
事各一名(共に嘱託)

三、運営審議委員会の構成

公運審の構成は、委員総数十
八名で、一号委員二名、二号委
員八名(内女性一名)、三号委員
八名(内女性二名)で、社会教

育委員とは別に委嘱されてい
る。任期は二年。年間会議回数
は六回。なお、運営審議委員会
の会議の時には、各分館長から
も出席してもらっている。

四、これまでの歩み

小須戸町の公民館は、昭和二
十四年に、県下の公民館の先陣
をきって、県教育委員会から優



良公民館として表彰されるなど
名誉ある歴史と伝統を維持して
今日に及んでいる。

当公民館の特色は、中央公民
館の充実と共に、分館活動の活
発な点にあった。四分館のどの
分館も地区の自主性のある運営
と、地域に根ざした特色ある事
業を展開し、分館というよりは
地区館と呼ぶほうがふさわしい

実情にあった。

このような、いわば、並列館
方式による分館活動の充実にと
もない、中央公民館のあり方に
問題が生じていた。それは、分
館との連携が弱くなり、いきお
い、孤立化の傾向が現れてきた。

このことは、公民館の機能とし
ての「集い、学び、結ぶ」役割
のうち「学ぶ」ことに重点をお
く傾向が強まり、近年の時流に
乗ってカルチャーセンター的な
運営に偏る傾向が現れてきた。

それはまた、公運審の形骸化を
意味するものでもあった。

このような中央公民館のあり
方への問題提起に、併せて公運
審のあり方についての問題を公
運審の内部から指摘するようにな
った。昭和五十年代の中ごろ
のことである。

昭和六十年になって、まず公
運審の活性化から取り組もうと
いう意見が出され、翌六十一年
に、委員の中から選出された六
名の委員(二号委員三名、三号
委員二名、分館長一名)と事務
局とによる「公運審活性化に向
けた小委員会」が設置された。

設置の期間は一年とし、回数三
回、審議内容は小須戸町の公運
審としての課題とその実践に
あった。

五、小委員会の結論と 活性化への取り組み

1 公運審の役割と任務
公運審の役割は、諮問機関と
しての機能を発揮することにあ
る。このため、

① 住民のニーズや、地域の課
題を積極的に把握するためのア
ンテナにならう。それには委員
の立場を生かすことが合理的で
あり、委員の委嘱について適正
な代表を選出する必要があるこ
とが指摘された。

(後述)

② 公民館活動の部門別の調査
や研究を綿密にすることが望ま
れる。それには、記入式調査や
アンケートによらなくとも、事
業に参加する中で、あるいは、
町民に参加を呼び掛けることの
中で、事業の評価や反応が
キャッチできる。よって公民館
で実施する事業には極力参加す
るようによし、という申し合せ
がうまれた。

③ 各団体への調整役として事
業の推進をはかる。(たとえば、
文化講演会や町民展などへの参
加呼び掛けなど)

2 委員の委嘱について

前述のとおり、公運審委員が
町民と公民館とのパイプ役とな
り、あるいは、アンテナ役を果
たすためには適任者が望まれ
る。そのため、

特集 公運審の

小須戸町中央

回	期日	内容
1	4.26日	<ul style="list-style-type: none"> 62年度事業の評価の確認 今年度の事業計画 予算報告 <p>諮問 中央公民館事業にかかわる分館の望ましい対応について＝答申内容の審議 *諮問は昨年度(63.3)にだされ、答申は文書によらず、63年度の会議の中で論議を進め、その都度会議結果を答申とする。</p>
2	6.28日	<ul style="list-style-type: none"> 研修 テーマ＝生涯学習情報センターとしての公民館のあり方(理論編)
3	7.25日	<ul style="list-style-type: none"> 分散会＝委員の日常活動のありかたについて
4	10.28	<ul style="list-style-type: none"> 63年度前期事業の反省と評価 64年度事業の方向
5	12月 上旬	<ul style="list-style-type: none"> 研修 テーマ＝生涯学習情報センターとしての公民館のあり方(実際編)
6	2月 下旬	<ul style="list-style-type: none"> 63年度後期の反省と評価 64年度事業について

① 二号委員は充て職ではなく、適任者を各団体から推薦してもらふ必要がある。

② 三号委員は、地域割りおし、四分館より一名ずつ推薦する。また、学識経験者の委嘱にあたっては、真に公民館の活動に対する関心の深い、協力的な人材を配慮する。

*後日この答申をうけた、教育委員会と公民館長は、委員の改選期に(昭和六十二年度)社会教育関係団体へこの趣旨を説明し理解と協力を得るために献身的な努力をしている。

3 委員の資質の向上
生涯学習社会の形成を進める

ことの重要性が増している今日、委員の資質の向上は極めて大きな意味を持つ。そのため、

① 事務局は、委員の一人ひとりが研修や活動をしやすいように、情報の提供をきめ細かにすること。また、県公連の資料、各種参考資料、参考書などについて提供する。

② 研修は、専門の知識に関するもの(講師を招へいしての講義や公運審の活動の活発な先進地の委員との交流など)と一日研修(委員相互の研修)を一年毎に交互に実施する。また、各種の研修会や大会には積極的に参加する。なお、研修や会議では必ず意見を述べるような申し合せもしている。

4 会議の運営
会議を開催するに当たっては効率の高い会議にするため、次のような手順で進めている。

相互の親睦を深めるように工夫している。

・審議予定の年間計画表を作成している。(ちなみに昭和六十二年度の審議計画表は、表1のとおりである。)

・必要により小委員会を設けられるようにしている。

・テーマにより、専門家を招いて意見を聞いたり、話を聞いている。

六、現状と成果
公運審の活性化対策は、昭和六十二年度から、日常の実践にうつされ、次の成果が現れている。また、昨年度末に公民館長から出された諮問事項「中央公民館事業に関わる分館の望ましい対応について」が今年の仕事であり、この諮問事項の答申が新しい小須戸町の公民館体制をすすめることになろう。

七 今後の課題

1 町行政の社会教育に対する理解をより一層深める必要がある。

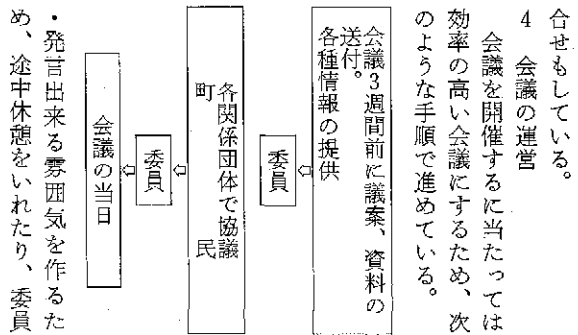
生涯学習社会の形成は、教委・公民館の努力と共に、一般行政部局の協力連携が不可欠になるからである。

2 公運審委員の若年層の参加の必要
現体制では、二十代の委員が一人もいない。公民館の活性化のために、若者の意見と若者の活用する公民館にする必要がある。

3 専門的知識が必要になってきている。
運審委員が二年の任期で新委員が委嘱されると、その都度、社会教育に関する専門的な知識に戸惑いをもってきている。このための啓発的な研修が必要である。

3 力するようになった。
運審委員は公民館(職員を含めて)のパートナーであるという実感がわくようになってきている。

4 役目や任務を強制しない、楽しい運審にすることにつとめているので本音が聞けるようになってきた。



・発言出来る雰囲気を作るため、途中休憩をいれたり、委員

1 積極的に意見が述べられるようになった。
これは、委員個々の自覚によることは言うまでもないが事務局の会議資料の事前提供やきめの細かな情報の提供などによるものと思われる。

2 会議の出席率がよくなってきている。したがって、当然のことながら、事業に関心を持つようになり、積極的に協

助するようになった。

運審委員は公民館(職員を含めて)のパートナーであるという実感がわくようになってきている。

役目や任務を強制しない、楽しい運審にすることにつとめているので本音が聞けるようになってきた。

実践記録シリーズ

(25)

国際化時代に対応した 多彩な国際理解の事業

新潟市中央公民館

新潟市は、アメリカ、テキサス州の港湾都市ガルベストン市、ソ連シベリア極東地区の中心都市ハバロフスク市、中国東北地区黒龍江省の省都ハルビン市と姉妹都市・友好都市の締結を行っている。

さらに、朝鮮とは昭和三十四年からの在日朝鮮人の帰国事業により、また、韓国とは新潟ソウル航空路の開設により、それぞれ緊密な関係を持つなど対岸諸国を中心に活発な国際交流を行っている。

このことは、公民館事業にも現れ、十余年間続いている中国語講座、四年前から始まった国際理解青年講座、中国の人から本場の隸書を学ぶ書道教室など、いずれも盛況を極めてきた。

今年になって、新潟市中央公民館では、「国際理解を深めるための学習機会の充実を図る」を重点事項に加えるとともに、韓国・朝鮮語を学びながら文化や習慣を学習するハンダール講座を開設するなど、時代に対応した取り組みを行っている。

また、自主グループの利用もいくつもあり、英語・ロシア語などの語学学習や国際理解を深める学習などを行っている。

生きて働いている 中国語講座

ハルビン市と友好都市締結で一層高まった中国への関心、そんな中で始まった講座は毎年二倍もの応募で大盛況である。

受講生は、かつて中国で生活していた人や、これから旅行をしたい人など、若者から年輩の方まで幅広い年齢層である。講師は日本人と中国からの留学生で、週一回で約七カ月に及ぶ長期講座にもかかわらず、欠席者は少なく熱心な受講が続いている。

去る五月に新潟市で初めて開催された国際大会、アジア卓球選手権大会が多数のボランティア通訳に支えられ、成功裡に終了した。これには、当講座を終了し自主グループを作っている皆さんも参加し、学習の成果を実践に生かし、大会の成功の一

助となったと聞いている。

アイデアを生かした 国際理解青年講座

これまでアメリカ編(昭和六十年度)、アジア編(六十一年度)と外国人ゲストを迎え、好評なシリーズ講座である。昭和六十二年度はヨーロッパ編に挑み、



外国人ゲストを迎えて(青年講座—アジア編)

青年を対象に企画委員を公募し実施した。講師にヨーロッパに滞在していた人々を迎え、生活面でのこまやかな体験や、ス

青年講座プログラム

1	～国境のある不思議な街ベルリン～ ◎ベルリンの壁を越えるとき ◎東西ベルリンの歌集	発表者 小櫃 伸一 ほか
2	～パリとフランスの文化～ ◎フランスの食文化(幼稚園・家庭・レストランの食事) ◎パリとフランス人の誇り	発表者 戸川 恵子
3	～南ドイツ スケッチの旅～ ◎田園の教会、街の教会、心象の風景 ◎オクトーバーフェスティバルの楽しさ	発表者 上山 寛
4	～ゆとりの社会 ドイツ～ ◎ドイツの時間は豊かでゆったり ◎週末と休暇の楽しみ	発表者 中村とよ子 ザビネ・マンゴールド
5	～おとぎの国の子供たち～ ◎幼稚園の一週間 ◎オランダステッドのたたずまい	発表者 子田 則子 ほか
6	受講生による自主企画 ① ◎受講生の体験発表	
7	受講生による自主企画 ② ◎音楽家のふれたオランダ	発表者 奥村 和雄

ライドを使っての日常風景の説明など、様々なアイデアを生かして日本人の日から見たヨーロッパを語ってもらい、好評を得ている。

受講者も二十代三十代が比較的多く、公民館離れしている青年層を引付け、今後の公民館講座の持ち方を考えさせられた講座でもある。

今年はいベレストロイカのソ連邦や、とみに最近、人的交流の盛んな東南アジア諸国を対象に検討していこうと考えている。

永住帰国者から学ぶ 書道教室

帰国者の持っている専門技術の活用と本場中国の隸書の魅力

に触れて貰おうと六十二年度から実施し、二年目を迎えている。講師には元瀋陽故宮博物院職員の前先生にお願いし、通訳を介しての学習で歯痒い時もあるが、十代から八十代までのお年寄りまで和気あいあいと進められている。今では自主グループも誕生し、さらに交流の和が広がろうとしている。

最も身近な隣人の言葉 ハンダール講座

今年、県補助の国際交流活動促進事業をうけることになり、以前から要望の強かった韓国・朝鮮語の講座を開設することにした。(七面下段へ)

パネル討議に見る

仲間づくりと地域の活性化

中魚沼郡社会教育大会
十日町市

去る6月27日、中里村総合センターを会場に中魚沼郡十日町市社会教育振興会の主催による、第34回郡市大会が開催された。二百名に及ぶ多数の参加者で、終日熱心な研究が展開された。その中から「仲間づくりと地域の活性化」をテーマにしたパネル討議の内容を紹介する。

登壇した五人のパネラーからそれぞれの所属するグループの現状・グループの活性化方策・地域の活性化への対応と、前後三回に及ぶ意見発表、途中で一般参加者からの質問や意見を採りあげるなど、司会のたくみなリードによって熱の入った討議が展開された。ここでは、紙幅の都合で、発表者の要旨のみを簡略に紹介する。

パネル登壇者

- 樋口 秀夫 (青年学級生)
- 関 正利 (体育協会会長)
- 山本 ケン (民生委員)
- 齋木宗一郎 (村会議員)
- 高橋 憲治 (老人クラブ)
- 司会 林 勇次郎 (中学校長)

高橋 いま、老人クラブの高齢化が問題になっている。つまり65歳ころまでの人が、自分では老人とは思わず、加入したがいらないからである。加えて、趣味の多様化などで老人クラブは高齢者のみである。

「歌って踊ってゲートボール」と冷笑を買っているようだが、



パネル討議の模様

あまり面倒なことを言わず、楽しみたい人を楽しませてほしい。老人クラブの三大活動目標に、文化・健康・奉仕の活動がある。奉仕活動を盛りあげて活性化を図っている。

齋木 戦後の混乱期は青年の素晴らしい働きがあった。復興期には、青年の生産意欲が大きくなり時代を反映して、趣味・娯楽など極めて多様になっている。

このグループを地域の活性化につなげるには、より質の高いグループ、地域のために役に立つ仕事に目を向ける、そして、自分たちのグループのみでなく、他のグループとも交流するなど、開かれたグループになる必要がある。

山本 いま、高齢化社会に向けて、福祉の関係では、施設依存型から在宅福祉や地域福祉へと大きく変わりつつあります。そこに必要となるのは、地域に住む人々の温かい思いやりと助けあいの心の満ちた明るい地域づくりです。また、地域の人々から、ボランティア活動の理解(ボランティアとして協力してくれる人々の増加と、「受け手」の素直さと寛容さ)が大切です。

福祉の活動をおとして、仲間としての心の通いあいの拡がる

ことが地域活性化につながるものと思ひ努力していきます。

関 スポーツには、一人でやれるもの、グループでやるもの、楽しみのスポーツ勝負にこだわるスポーツといろいろあるが、一つの目的に向って汗を流すのが特色である。それが人の心を変えらるものである。仲間と共にするスポーツは、人間関係を明るくする。それが部落や村を愛することになるものと信じている。よって、一人でも多くの人がスポーツ(のグループ)に参加するようにすることが地域の活性化を進めるものと思う。

樋口 私たち若い者のグループは、自分がやりたいもの、仲間が楽しめるものを欲し集めてくる。ゆかた祭りや「千人ディスコ」などのイベントが最も身近な活性化の道だと思ふ。やりたい者が集るグループだから既製のグループ(青年会)などないざん新さがある。主役はその都度交代するので個性を生かせる。そのことが地域への貢献にもつながっていると思う。

とかく大人は、減反だとか、嫁の来てがいないと暗い面を強調したが、それでは逆効果だ。行政は財力の貧弱な青年グループの活性化のために活動費の補助をしてもらいたいものだ。

言葉の学習をおして、その国の生活や文化にも触れ、異文化を理解し、より関心を高め国際交流に役立ててもらおうことを目的として開催された。

語学が中心になるものの、ビデオを使って文字の歴史を学習したり、日本人がよく訪ねる観光地の案内など、盛り沢山の内容となっている。

以上、新潟市中央公民館で昨年と今年実施している主な事業を紹介したが、この外にも中央公民館では、中国からの帰国者から一日も早く日本になじんでもらうための「中国引き上げ者地域交流事業(県委託事業)」などを実施している。また、西地区公民館での「新大留学生との交歓」や、各地区館での英会話講座など地域の実情にあわせた講座が活発である。

今、国際化時代と呼ばれている中で、これらの講座の受講生が一人でも多く国際理解に関心を深め活動を広めていただくことを願ひ、さらに多彩な事業に取り組みたいと考えている。

(新潟市中央公民館 主査 前田 謙 記)



社会教育施設の「インテリジェント化」とは

お尋ね

臨時教育審議会の答申が出されてからのように思うのですが「社会教育施設のインテリジェント化」という言葉がしきりに使われるようになりました。この「インテリジェント化」というのはどういう意味ですか。

(山北町公民館長 佐藤久恵)

お答え

一、「インテリジェント化」とは何か

臨時教育審議会は、その第三次答申において、生涯学習の基盤整備を推進するため、教育・研究・文化・スポーツ施設のインテリジェント化を提言した。

そこでは、このような文教施設設の「インテリジェント化」を「高度の情報通信機能と快適な学習・生活空間を備えた本格的な環境を整備し、地域の教育・学習、情報サービスの拠点として最大限有効に活用すること」と定義付けている。

このことから、社会教育施設

の「インテリジェント化」とは、生涯学習時代の高度情報生活にふさわしい地域社会共通の学習情報センターとして施設整備を行うことと考えられよう。

二、なぜ「インテリジェント化」なのか

「インテリジェント化」の意義は、第一に生涯学習への対応であり、第二に情報化への対応であり、第三に機能の有効活用であるとされているが、社会教育施設が時代の変化に対応するだけでなく、来たるべき学習社会建設のリード役を果たすことこそが今日最も期待されているのである。

すなわち、環境のもつ教育力に注目し、新しいニーズとサービスをもたらず、本格的に整備された、魅力ある社会教育施設の整備こそ、地域活性化のエネルギー源であり、地域・学校・家庭の教育力の一体化を実現し得ると考えられる。

三、「インテリジェント化」の方向とは

具体的な「インテリジェント化」の方向としては、三つの「T」が提唱されている。先づ、コン

ピュータ、ニューメディア等の最新の情報環境を整備することにより、多様化・個別化・高度化する人々の学習ニーズに応えること(HighTech)、また、自由集まれるコモン・スペースや語らいの広場、周辺の景観との調和や地域の歴史や特徴を生かした建物の美しい生活空間の整備を図ることにより、人と人との触れ合いを醸し出すこと(HighTouch)、更に、利用対象を大幅に拡大するとともに、二十四時間体制を目指して多目的利用を図ることにより、地域の公共財としての機能

を果たすこと(Tenant)が重要である。こうした基盤の上に個人の自由な学習システムの構築をもたらし学習社会の実現が可能となる。

四、本県における取組

本県においては、新しい県立図書館の整備に関し、最新の情報技術を積極的に導入するとともに、関係機関とのネットワーク化を進め、県民のあらゆる情報ニーズに応え得る情報図書館(インテリジェント・ライブラリー)として他県に先がけて建設することとしている。二十一

刊行物紹介

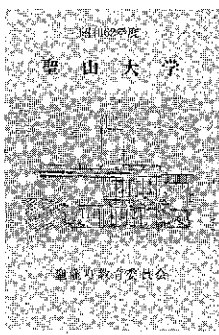
「聖山大学」聖籠町公民館

北蒲聖籠町公民館から「聖山大学」という冊子が贈られてきた。聖山大学(高齢者学級)の学生の作文集である。

学生たちの作文もさることながら、写真がたくさん載っているのが特色である。四月入学から三月卒業まで(この大学は)

年限りで留年を認めていない)の懐かしいスナップ写真が目で見る学生生活の想い出を再現してくれている。

また、巻末に手書きの広報紙が、これまた四月以来の開校予告通知の広報十六枚が再録されている。その一枚一枚がプロはだしのイラストや写真を入れ、文字も手なれたレタリング調で読むものを引きつける魅力あるものである。受講者の身になって編集された特色ある冊子である。



発行所 新潟県公民館連合会
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟(025)224-6073】
発行人 会長 木下 清一
編集人 事務局 上村 捨二郎
【定価1部120円 年共1,440円】

世紀に向けて新潟県立図書館を核に、本県における教育文化と社会経済の飛躍的発展が期待される。(県社会教育課)

あとがき

◇異常気象の続く夏です。それにもかかわらず、夏祭り、お盆と公民館の事業は真盛りです。健康にご留意の上ご活躍ください。

◇「素顔拝見」は都合により休ませていただきました。

◇今月号から第八面を「ネットワーク」と装いを新たにしました。これまでの「県事業紹介」欄とは一味違った情報コーナーにしたいと考えています。

市町村の情報も掲載します。また、質問コーナーも特設しますので、読者からの投稿や質問を歓迎しますのでどしどしお寄せください。(上村 記)